

昭和48年10月1日
編集・発行
岡崎市教育委員会

倫理を勉強していた若い頃知ったことばで、人にも語ってきた。常に進むものにして、はじめて人を教える資格があると思う。「日に新たに」このことばは、人生の教えであり、教育者への警告であると思う。

河口 信一郎

まこと
苟に日に新たに、日に日に新たに

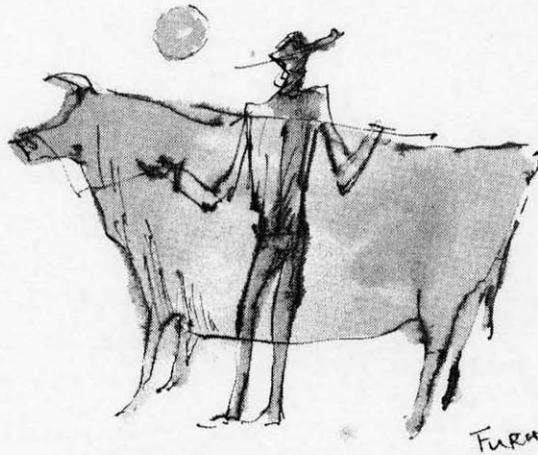
また日に新たなれ。

「大学」



(陣屋の松 福岡小)

陶工柿右衛門が、夕陽に照り映ゆる柿の實の色の美しさにうたれ、その色彩をやきものに出そうと努力した話は有名である。ところで、終戦後、修身教科書のこの柿右衛門の記事さえ、墨でぬりつぶさせた先生があったという話を、つい最近お聞きしたことがある。戦後民主主義が、いかにも浅薄なものであったことを



古典をみなおす

山田 英世

物語る話ではあるが、これは、その先生だけのことでなかったわけである。武士道といえば、単純に封建道徳の代名詞として片づけ、それが日本人の精神史において、はたしてきた奥ぶかい味わいを考えてもみようとしなかったことも右の浅薄さの一例であった。九鬼周造は武士道の基本的心情を「いき」（意気）と

たちの人生の「場」をいかにして把握すべきかを、分析的に説明する一つの哲学といつてもよいものである。それは、けつして封建道徳などの書ではなく、いわば一つの実存の書なのである。

宮本武蔵の著書と伝えられる「五輪書」にしてもそうである。その「火之巻」に人間には越してゆかなければならない多くの「と」（渡）がある。「人の世を渡るにも、一大事にかけて渡をこすと思ふ心有べし」と武蔵はいっている。「と」は人生の危機であり、決断を要求する限界状況である。それを越してあたらしい場面に出る。人生とは、このような「と」の連続なのである。

内と外、部屋と部屋のあいだには「と」（戸）がある。それはAとBをつなぎ人生をAからBへ変化させる通路である。また、将棋の歩は危機線を突破すると「と」になる。つまり「と」は英語のアンドに当る接続詞であるとともに、AをBならしめ、さらにそのなつたところのものでもある。武蔵の頭の中にもこんなことがあつたのではなからうか。

いずれにせよ、一時の気まぐれから、伝統的なものを捨ててしまふのではなく、もつとじつくりと、古典を読んでみる必要が、いまこそ、あるといえる。

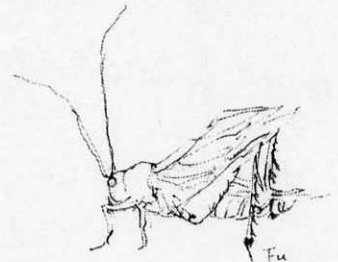
（愛教大附属高等学校長）

としてとらえ、これは武士道だけではなく、一般に日本人の「いき」（粹）を尊ぶ氣質のなかにみられるといっている。このような、日本人の精神構造へのふかい洞察もなしに、伝統的なものへのアレギー反応だけで教育に従事するのは、あまりにも没主体的で非歴史的なことといわなければなるまい。

おとしだつたが、NHKのドラマに「春の坂道」というのがあつて、これが柳生の里を一时的な観光地にしたあげたらしいが、この里を訪れた観光客のなかのどのくらいの人たちが、柳生宗矩が書いた「兵法家伝書」などをお読みになつて行つたであらうか。この本は、たんに武士道を説くばかりではなく、わたし

いまはむかし

唱歌から音楽へ



●ト・ロ・イ

戦前の音楽というとメロデーを声をはりあげて斉唱する「唱歌」であり、四大師の式の歌を思い出すことが多い。

昭和十六年、尋常小学校が国民学校となると「唱歌」は「音楽」と名を改めた。戦争に結びつけた音楽的見地から敵と味方の飛行機や潜水艦の音の聴きわけができるようにと和音訓練が取り入れられ、合唱にも力が入れられるようになった。ドレミファソの読み方はハニホヘトの音名読みが叫ばれたが、ソ・シ・ラはト・ロ・イとなり、どうも発音がよろしくない。歌っては大笑い。

●O・M・G

現在、岡崎の吹奏楽団は十五団体を越え、軽音楽のバンドまで入れると五十団体を上回るではないかと思う。したがって、これ等の楽器を演奏できる人も二十

氏神祭りの子供

杉本舜市

まつりは夜から

三河では、あちらこちらで、祭りの日の前の晩のことを、ヨゴモリとか、ヨミヤとか、ヨイマツリなどという所があります。これは、祭りの前の晩の小さい祭りくらいに思っている人もありますが、このヨという言葉は、夜という意味ではなくて、いみ(齋・忌)という言葉の短くなったもので、いみごもりといって、もの思みをして、身も心も清め慎んで、神様のおそばにじつとつかえる、ということです。

まつりという言葉も、神様のおそばに仕えまつる、という意味だったので。今の人は、祭りの前から神様に仕えると思うのですが、昔と今とは、一日の始まる時間が異なっていたのです。昔は日の暮れる時が、次の新しい日の始まりとなっていました。それを前の日の晩のように思いがちしているのです。決して夜中の十二時ではなかったのです。

近頃は、見物人を目あてにした昼の花やかな祭りが多くなり、本当に神様に仕えまつる夜の祭りが少なくなったのは残念なことです。

春祭り・秋祭り・夏祭り

祭りは氏神祭りが主であります。古い記録によると、昔の氏神祭りは、二月と十一月の二対の祭りであったようです。

関東や東北地方では、個々の屋敷の隅の方に氏神を祭っている所が多いが、これも二月と十一月とに祭りをしていいる所が多いようです。また、一家(いつけ)氏神といって、十戸か二十戸くらいの一族の家が共同して、その本家で氏の神を祭る風習があり、藤原氏の春日神社などもこれに当たるものです。

一体、祭りはその時々採取せられる山の物・海の物・田畑の物を、神と人が共に食べてやわらぎ楽しむのが第一の要件なので、供物と祭日とは断ちがたい関係があつて、新しく収穫した新米を神に供えるということが、日本の祭りの最大の目的であつて、二月と十一月の祭りは、稲作の祈願と感謝とを中心として行なわれたものと思われまます。

夏祭りは、氏神様以外の神が多く、八幡様・天神様・祇園様などの祭りで、京都に都ができてから始められたようです。流行病や落雷や火災で、この世にうらみを残して死んだ人たちの霊を慰めるためにするものです。今ではこれらの神を氏神だと思つている人もあります。

子供と氏神との関係

子供が生まれて、男の子は三十二日目、女の子は三十三日目にお宮参りといって赤飯を作り神酒を持ってお宮に参詣させます。その時、子供の名を氏神様に申しあげ、または鼻をつまんでわざと一声泣かせたりして、氏神様に聞いていただきどうかお守りくださいとお願ひ申しました。この時、氏子札というものをいただいて、子供の帯を着ける風習がありました。これをつけておけば、迷子になつても何神様の氏子だとわかるし、子どもが危い時は、氏神様はお守りくださるともいいます。

また、七五三といつて、五つの子と三つと七つの子が霜月十五日に、氏神様にお参りをします。これは氏神様に、子供がこのように成長した事と、成長の段階ごとに守護をお願いするためでした。また、遠く氏子が旅立つ時、帰つた時にも、氏神様にお願いとお札にと参ります。このように、氏神様はまた親神様(おやがみさま)とも申して、何から何まで氏子のことを心にかけて、守つてくださるありがたい神様です。

(民俗学者)



人を越えるものと思われるが、今から三十年前は市内の小学校の先生たちで思いの楽器を持って結成した二〇名から三〇名位の楽団が唯一だった。運動会や祝賀行進に活躍し、氣勢をあげていた。やがてO・M・Gと銘打つて終戦後も演奏会を開いていた。

●演奏会

戦争は終わったが、とかく気持ちのすさんだ世の中を音楽で和らげようと、文化協会を作つて、四家文子、木下保、巖本真理、辻久子、平岡養一氏などの名士を呼び演奏会を開いた。当時は焼け残つた梅園小の講堂、女学校講堂(現在の甲山会館)が主なる舞台で、現在の市民会館的存在。昭和二十二年には宮城道雄さんもちこれ岡崎劇場で演奏会が開かれた。入場料は大人五〇円、学生三〇円、大人り満員であつたが大穴があいてしまつた。

●講習会

二十一年、進駐軍のお達しから、教科書の内容を削除され、教材がなく、お手あげの状態、市内の先生たちで輪唱、合唱も織りませ、ガリ版印刷、夜中に書いたり、床下へしまつて原紙を冷やしたりして曲集を作り、梅園小学校で講習会を開いた。三河の学校から集まつた先生方はこれを教科書代りに用いて音楽の授業がすすめられた。

(前山) 小学校校長 近藤勇先生、前六ツ美中部小学校校長 高瀬忠三先生、城北中学校校長 小笠原健治先生にお聞きした。(城北中 川合博)

運	動	会		
			このよき	もの

出席者(敬称略)

- ・杉浦 信一 (元南中学校長)
- ・都築孝太郎 (奥殿小長)
- ・足立 道子 (矢作南小)
- ・石川 春次 (城北中)
- ・司会 木藤広二(甲山中)

オルガンに蓄音機で

木藤 黄色い稲穂がみのり、青い空のものと、全国津々浦々運動会がくり広げられます。運動会の歴史は、明治十年ごろまでさかのぼることができますが、きょうは、昭和の初めの頃の様子から――。

杉浦 そのころはマイクがありませんので、大声をはり上げたり、笛にたよったりしたものです。先生方のプラスバンドも盛んでしてね。新任の先生は、まず、ラッパが吹けるかどうかテストされる。合格すると猛訓練です。特別に栄養の補給なんかしてね。

都築 プラスは、昭和十七年ごろになると、高等科の生徒がやるようになってい

洋服の普及を助ける

杉浦 私が富士松小にいた頃、日体出の先生についてやったので、そのころとしては新しい組立体操、とび箱、空中転回などとり入れたものです。連合運動会でもやりましたよ。

都築 よく調べてみると、種目は明治のころからあんまり変わっていないようにすね。時期は四月と十一月に集中していますが、これは、お百姓の暇な時だからでしょう。おもしろいことに、運動会が洋服の普及に一役かったといえますからね。なにしろ、着物では運動ができませんから。それから、あれだけ軍の勢力

ましたね。閲兵や分列行進ばかりでしたけど。
杉浦 オルガンや蓄音機に合わせてダンスをやったものです。音が小さいので、見ている方は聞こえませんが、円陣の中では聞こえるのです。
木藤 練習の時間なんかは、どのようにしていましたか。

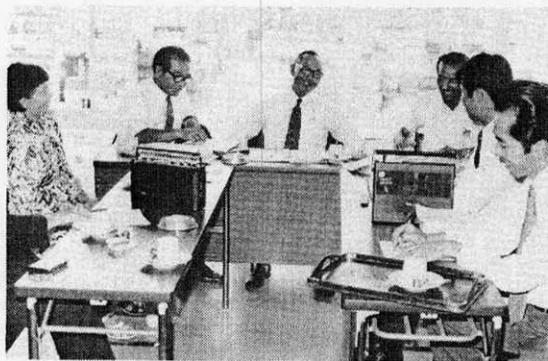
杉浦 徹底して練習をしたので、運動会で時間がつぶれるというのに対して、あれこれ言うことはありませんでした。学校中あげてやる大きな行事だから、当然だと思われていました。それがだんだんと反省され工夫されるようになってきたのです。

の強い時代に情操教育も重視したことはすばらしい。スポーツは情操が第一だ、筋肉の鍛練は末の末だという考えもあつたくらいです。

杉浦 徒手体操など、一つ一つ区切つてやりましたね。その後、柔軟性も加え、リズム的な要素もはいるようになったのですが……。

木藤 運動会は地域社会のお祭りといった性格も強かつたようですが……。老いも若きも、一家そろつて楽しんだのですね。

杉浦 たいへんなにぎわいで、売店も多く出ましたよ。それを校内へ入れる入れないでもめたこともありましたよ。



富国強兵のあおりを受けて

木藤 昭和十六年ごろになると、中等学校では体育練成大会となり、国防競技が中心となりましたね。戦争ごつこのようなことでしたが……。

都築 国家総動員体制が固まりつつあるところですね。指導要綱の改訂で、市内全部の先生方に四日間伝達講習をしました。私も鉄棒を分担してやったのですが到達目標がはっきりしていましたね。け

上りー中ぬきーともえーふりとびと、きびしいものでしたよ。一年から六年までの全教材を一つずつやりました。また、情操的な音楽遊戯も禁止されました。たとえば、荒城の月なんかもやれなくなりましてよ。そのかわり、一年生でも、プラスに合わせ、横隊の分列行進をやったりしたものです。軍国主義の色がこくなってきて、十七年ごろには運動会もできなくなりましたね。

木藤 連合運動会も盛んで、子どものころ、リレーに参加した記憶があります。
杉浦 どの学校も非常によく練習して参加しましたね。一校でも演技がまずいと全体にひびきますから、リレーは途中で中止になりましたよ。まちがった競争心をおおるということで。マステームのようなのを中心になっていたと思います。

都築 連合運動会はリズム体操祭に発展し、盛大に行なわれていましたね。

焦土によみがえる

都築 戦後の運動会の復活は早かったです。第一回の国体が京都で二十一年に開かれていますから。今まで抑えられていたものが一度におしのけられたのですから。二十三年に占領軍のアドバイスでフォークダンスの講習をしたのですが先生方がてれくさがってね、なかなかやつてくれなかったですよ。子どもの方も六年生ぐらいになると、なかなか手をつながなくて、棒をもってやらせたりした人もいます。

木藤 二十四年ですが、文理大で講習を受けてきて美川中学でもさつそくとり入

●明治二十年の運動会

天気晴朗暖和春ノ如シ本郡高等小学岡崎学校ヲ始メ投連尺鴨田伊賀藤川大平羽根六名福岡ノ十校生徒タチ九百名ノ大運動会ヲ菅生川原殿橋ノ直下ヨリ東二百竝ノ間ニ行フ本校ヨリハ坂崎分校トモ合セテ五十名午前七時出発九時到着十一時ヨリ運動ヲ始ム其順次ハ先ツ三年生ノ矯正術、次ニ四年生ノ徒手体操次ニ一人一脚競走次ニ二人三脚競走次ニ綱引「フットボール」ニテ其間女子ノ唱歌ヲ交ヘ終テ郡長ヨリ賞品ヲ取勝者ニ与フ 明治二十年十一月二十六日 (福岡小学校の記録より)

れたことを覚えています。その後、生徒主体の運動会とか、学習発表の場とかいろいろ移り変わってきているわけですがこのごろの様子について……

足立 前任校の男川小学校では、年に二回やりました。春は学区の体育祭です。子どもは子ども会から出場します。校内のももちろんだいいじですが、地域ぐるみの運動会も非常にいいものだと思います。

都築 昭和二十二年の指導要領には、音楽遊戯に大きな特色がみられます。それまでは、形を伝達する、子どもはまねして覚えるといったものだったが、自然の表現とか創作活動などを重視するようになった。奈良女高師の松本先生を招いて研究したものです。画期的な転換ですね。足立 型にはめるのではなく、自由のびのびと表現させるのですね。昔のあた

日ごろの指導・全校の協力

木藤 中学校では、校内競技会と、総合運動会とあるようですが、城北中の場合はどういう内容ですか。

石川 うちの学校では、次の六つの基本方針をもっています。

- 1 正課体育の中でカリキュラムに従い指導してきたもの
- 2 学級活動に関連したレクリエーション的なもの
- 3 学級対抗の競技(当日は決勝のみ)

まで見たのでは、何をやっているのかよくわからないこともありすが……

心に残る楽しい運動会を

都築 昨年百周年記念で地域あげての運動会をやり好評でしたのですが、小学校の時間が一時間しかない。子どもから意見が出まして、学校だけでウイークデーにもう一回やりましたよ。子どもも非常によこんで満足してくれました。やはり、地域と学校と二回やりたいですね。学区のは練習をしなくてもできるもの、学校主体のは、じっくりやればよい。

杉浦 現在の体育計画は、教育的に深い配慮があります。お聞きしていて、これではなくてはいけないと思いました。私たちのころは、どうかすると、体育部の人のみで立案して一方的にお願いした。今

実施)

- 4 各種クラブのデモンストレーション
- 5 全校の意気を示す全男帽子取り、全女の五万石おどりなど
- 6 高い水準の模範演技

木藤 これだけの内容ですと、準備とか運営とかがたいへんだと思いますが、どうしていますか。

石川 とても体育の先生だけではできませんし、そのシーズンだけの準備だけでもまにあいません。夏休み前から計画し

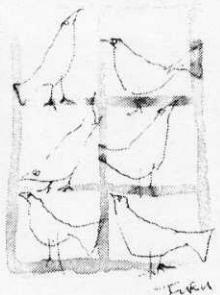
のは、全校の協力で、細心の配慮がなされ、ゆきとどいたものです。こうしていけば教育的なねらいも十分達成され、しかも、子どもの心に生涯残る「楽しい運動会」になることと思います。



足立 私のところでは、全校児童で「矢南の力」というのをやっています。ヤナと人文字をかき、そのあと紅白の綱引をします。全男の騎馬戦、全女の大王ころがしや、体操クラブの模範演技もあります。教師中心でもなく、かといって児童に任せっきりでもなく、両方で共同してやります。前任校では、四月に学年種目が決まっていたので、日ごろからじっくり練習ができました。これもいいと思います。

(記録 嶋田 稔)

〈サークル活動〉



若き教師の集い

社会科学サークル

私たちのサークルは、一昨年四月、二十代の社会科教師十二名によって発足した。教職について間もない私たちは、常に教育の原理なり方法なりを、五里霧中で求めている者ばかりである。お互いの困難や悩みを語り合ったり、研究を交換したりすることによって、共に高め合うことを願いつつ出発した。

現在の私たちの研究活動は、授業研究、一般研修、そして巡検の三つの柱から成り立っている。

授業研究は、あくまでも実践に重点をおき「小・中学校の関連した社会科学学習指導」というテーマで取り組んでいる。

一般研修は、社会科教師としての専門性を高めるべく、長坂一昭先生を囲み古文書を読み合ったり、読書会を開いたりして

いる。

巡検活動は、夏休みを活用する県外巡検と、ふだんの休日を利用する地域巡検を実施している。この夏休みには、伊予田照和先生を講師に、鎌倉文化を探索した。また、身近な地域巡検として、市の指定文化財六十七カ所を、数カ所ずつに分けてたずねている。できるだけ多くの資料を集め、郷土岡崎の実態に基いた教育を築き上げたいと願っている。

いずれにせよ、私たちの研究活動は遅々とした歩みではあるが、これがいづかの日か私たちの教室に反映することを念じ、研究を進めている。いきいきとした楽しい社会科の授業、それが私たちの願いであるから。

(岩津中 梶尾長夫)

森信三先生を囲んで

岡崎読書会

● しつけの三大原則(あいさつと返事とはき物)さえしつけり出来たら、後のしつけは順にやれるようになる。というの、それによって「心のコップ」が上向きになるからである。

● 人間の真価を計る二つの目

やす。——一つは、その人の全智能が、一瞬に、一点に、どれほどまで集中できるかどうかということ。もう一つは睡眠を切りちちめても、精神力で、どこまで乗り越えられるかということ。

● 書物を買うのみが最上ではない。いわんや書物を買ひ惜しむるようでは、とうてい人生の閑所を越えゆくべくもあらず。才の人は、二十代三十代は、才でごまかせても、四五十に至ると書を読まぬ人は、油が切れて運転は止まるものなり。

——「人間」森信三先生語録より

岡崎読書会は、昨年より森信三先生をお迎えして毎月一回、山県三千雄著「人間」をテキストにして読書会を開いている。

森先生は、書物の内容を敷衍していかれるなかで「われら如何に生くべきか」をビシッと押えていかれる。前に紹介した箴言はその一部である。

教師として、人間として「人生にはどういう意味があるか、なぜ生きねばならぬか」を考えるまたとない一夜である。

(東海中 鈴木依治)

図書紹介

▼日本美再発見 週刊朝日編
朝日新聞社 一五〇〇円

なにもかもがものうくなつてばんやりにしている時、よくこの本を開いて見ます。

野間清六の文は、そんな気持ち、きらきらしたとても小さな美しい世界に運んでくれます。寂しいのは人間みなさ。どんなちっぽけな所にも、ほらこれだけ精魂かけた人間がいる。ボタンと閉じて、さあがんばらなくちゃと思います。

(細川小 富田久美子)

▼詩の中にめざめる日本 真壁 仁著
岩波新書 一八〇円

人は状況の中に生きる。日々遭遇する不透明な状況に対し、おののき、まさぐる——まさに人生。それを詩という表現形式で、真摯な検証を模索した無名の詩人たちの詩群八十四編。

埋もれてしまう詩を発掘し、それぞれに確かな位置づけをした編者の行為に愛を感じる。また、今の私に、自己の生と時代への探求の姿勢を問いかけてくる。(六ツ美中 山下 登)

▼省書録 佐久間象山著
筑摩書房「幕末思想集」 五八〇円

和魂洋才という東西文化の使い分けは、象山の「東洋の道德西洋の芸術」に始まる。だが幕末の対外危機感に動かされて、西洋の科学技術の摂取を計る彼の道德的気概はすでに主君への忠義を説かない。西洋人なら神と叫ぶところが、彼の気概は封建性の秩序を超えて「天」と直結し、国を保ち民を護る「天下の計」のための東洋道德を叫んでいる、とぼくは思っている。

(甲山中 戸松 賢治)

▼事実と幻想 会田 雄次著
——続・日本人の意識構造 講談社 四八〇円

夢を追いかけていた頃のみずみずしさを失いかけて一年余、思えば随分肩肘を張って生きて来た。己れを顧みる暇もなし、まして生きがいを見つける時間なんてと自ら言い聞かせて……

待望の続篇早速手にして読みながらその無理に気づく。迎合する気はないが、いつの間にか無くしてしまつた夢を追うゆとりと、相手を思いやるやさしさを取り戻したいとしみじみ思う。

(美合小 池部みや子)



【刊行あんない】

○「福岡小一世紀」

福岡小学校編

開校百年記念誌。時代順に校舎の変遷、卒業証書、卒業写真表彰状、作品、教科書等の図、写真のほかに卒業生、教師の思い出の文章を豊富に収録したユ

小中の音楽会
「岡崎のハーモニ」

— 念願の市民会館で十月二十日開催 —

小中学校音楽教育関係者すべての念願であった、市民会館を会場にした児童生徒の音楽会がその名も「岡崎のハーモニ」と銘うって十月二十日（土）盛大に催される。

●市内全校の児童生徒代表一〇〇〇余名が一堂に会して演奏することにより学校の交流を深め、演奏技能の向上をねらいとするものだが、あわせて市民の方に学校音楽を理解していただき、地域の音楽文化向上にも役立たせようとするもの。

●過去、長い間四ブロックで行なってきた連合音楽会とクラブ発表の場であった音楽大会とが一本化するその第一回の音楽会になるわけで、関係者の間ではこの音楽会を実績と伝統をもつ「造形おかざき」子展に匹敵する意義のある行事にしたいと

ニークな沿革史。B5一〇三P
○「現職教育研修の手引」

研修に関する委員会編

教育（各教科、領域）から文学、スポーツに至る各界から講師・助言者として招きたい人、指導を受けた人約四五〇人を選んだ名簿。B5一〇〇P

各中学校三年生のクラブ員を主体とした約一三〇名による合同演奏。

6 全員合唱

■電話の増設

四小学校の増設分電話番号は次のとおり。

- 男川小 二二一—二二八五
- 美合小 五一—一〇一九
- 井田小 二二—二一九七
- 矢作東小 三二—二六一〇

■県学校視聴覚教育研究大会

十一月十三日（火）、会場蒲郡三谷中学校。県下小中高の実

践研究の発表、国立教育研究所大野連太郎先生の講演。全学級の授業公開をする三谷中は新築校舎、視聴覚教育実践校として著名。岡崎では三島小が発表。

■特殊学級に図書のご寄贈

市内小中の特殊学級（三〇学級）の読書指導に役立ててとこの程葵ライオンズクラブから

図書六万冊分の寄贈をいただいた。読書の秋のうれしいご好意。

●48年度市内小中学校の研究発表会

学 校	発表日	研究分野	研 究 主 題	備 考
梅 園 小	9月28日(金)	作 文	・言語活動を基底とした「考える学習」の追究 —書く活動をとおして—	47年度からの継続研究
大 樹 寺 小	10月19日(金)	理 科	・主体的に学ぶ心を育てる理科学習 —子どもの探究心を満足させる実験観察—	"
山 中 小	10月26日(金)	体 育	・児童ひとりひとりの体力を伸ばす体育学習 —意欲的な動きを高める体操指導をめざして—	"
東 海 中	49年 1月18日(金)	作 文	・生活をつづり生活を高める子どもを求めて —作文教育をおすすめる文集づくり—	"
矢 作 中	11月6日(火)	理 科	・実験、観察を中心とした理科の指導	愛知理科教育研究発表会 三教研理科部会
岡 崎 小	11月9日(金)	体 育	・自覚にもとづく体力づくり —技能の向上をめざした社会的態度の育成—	47年度研究発表内容の深化
甲 山 中	11月14日(休)	保健体育	・正しい姿勢が持続できる生徒の育成 —基礎体力の充実をふまえて—	47年度からの継続研究
葵 中	11月20日(火)	英 語	・言語活動を育成する英語指導	愛知県英語教育研究集会 三教研英語部会研究集会
南 中	11月21日(休)	特別活動	・自発的活動の育成をめざす特別活動 —よりよい集団活動と人間関係の育成—	県教委委嘱研究
六ツ美北小	49年 2月5日(火)	音 楽	・基礎をふまえた音楽学習指導 —リズム指導を中心として—	47年度からの継続研究
生 平 小	紙上発表	給食指導	・たのしい給食指導 —合理化・能率化をめざして—	"

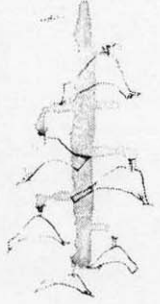
窓

一本の釘

人が寄ると「忙しくてね」と言うのがあいさつ代わりになっているようだ。人も車も他人をかき分け前にようとする。大変気ぜわしい世の中である。去る日、M氏から人を介して茶封筒が届けられた。中身は一本の釘である。「出発に際し、

宇佐美 利郎

いろいろありがとう。無事帰国した。三年間の足跡の一部分を同封する。受け取ってくれ(壁面に打ち込む釘)。開封した釘の傘は、ひん曲がり、表面はヒゼンの後遺症よろしくかさかさで白い粉がふいている。形はクラゲの頭そっくり。対照的な



は足のスマートな鋭さである。おどろきともなんとも不思議な思いが、それ以後私の心をとらえた。

私も、こともなげに「ああいそがしい」とあいさつ代わりに出るようになった。

日常生活の煩雑さに追われれば追われるほど、M氏の贈り物の一本の釘が心に引っかかる。教育の道はけわしく多忙であるが、常に目を子どもに向け、一本の釘の意味を忘れぬようにしたい。(常磐中)

編集後記

●：「爽秋」ということは好きだ。碧空、大気澄む十月はこの言葉のためにある。曼珠沙華が去年と同じ校庭の一隅に忘れず咲きだした。

●：二期もいよいよ本格的に始まっている。

●：この5号から、編集に新しい頂をとりいれてみた。8頁の「窓」である。前号までの「六階の窓」に変わるものであ

り読者各位の忌憚のない声を頂く欄である。期待したい。●：「運動会」の特集、平凡のようだが十月は運動会だ。教育百年史の中でも運動会は年輪が大きい。これからの新しい運動会は、若い先生方の手でつくられていくことに思いをいたしたい。

●：カットは南中学校古橋陸典先生にお願いした。

10月の行事

日	曜	行	事
1	月	教育実習(愛教大主免、中学校養護27日まで)	
2	火	学校事務の手引編集委員会(市役所) 月報岡崎の教育編集委員会(市役所)	
3	水		
4	木	都市美化啓もう作品展(8日までレオ5階)	
5	金		
6	土	都市美化啓もう作品展表彰式(レオ) 教育文化賞第1回選考委員会	
7	日	中学校運動会(予定日) 秋季一般男女軟式庭球大会(公園コート)	
8	月	教育実習(県内私大、県外私大20日まで)	
9	火	少年愛護センター運営委員会(市役所)	
10	水	体育の日 第20回岡崎市民体育祭(公園)	
11	木	定例教育委員会 教科指導員研修会(竜城会館)	
12	金	学校事務の手引編集委員会(市役所)	
13	土		
14	日	小学校運動会(予定日) 1万人卓球大会(市民体育館)	
15	月		
16	火	県学校保健研究大会(県歯科医師会館)	
17	水	定例校長会(市役所)	
18	木	教科指導員合同訪問(美川中)	
19	金	大樹寺小学校研究発表会	
20	土	小中学校音楽会「岡崎のハーモニー」(市民会館)	
21	日	中学校新人体育大会(公園) オリエンテーリングオープン大会(東公園) 市民ソフトボール大会(井田南公園)	
22	月		
23	火	県教委主事訪問(秦梨小) 英語暗誦大会(矢作中) 県高校進学説明会(竜海中)	
24	水	県教委主事訪問(生平小・香山中) 西三河学校保健大会(刈谷勤労会館)	
25	木		
26	金	山中小学校研究発表会	
27	土		
28	日	第2回市民ハイキング(桑谷山)	
29	月		
30	火	健康優良児童生徒審査会(南中) 県教委主事訪問(岩津中)	
31	水	小学校修学旅行打合せ(六名小)	